

集合的「われわれ日本人」

森巢 博

作家（シドニー在住）

オーストラリアに移り住んで、今年で21年目。住みやすいので、すっかり腰を据えてしまった。国家としての縛りがゆるい。その存在が軽い。なにしろ前首相のキーティングという人は、国歌の歌詞を知らなかったのだ（したがって、歌うことはなかった）。それで通ってしまう。

最近やたらと日本で目立つようになった国家主義者たちからの反発を買うかもしれないが、これは、明らかに美德であるとわたしは心得る。

それ以前は、イギリスに6年間ほど住んでいた。3年にわたり地球を流浪^{ささづ}っていた時期もある。だから、わが人生は海外生活の方がはるかに長い。

その間、いろいろといい加減なことをして喰いつないできたのだが、メインの2本の柱は、博奕^{ばくち}と育児だった。

妻は多忙だった。それで、7年間の約束でわたしが育児を担当した。約束の7年間で過ぎたら、妻はもっと多忙になっていた。だからわたしが、最後まで育児を担当した。

本誌2001年9月号の特集（「三歳児神話」の検証）のとおり、「三歳児神話」なんて、まるで嘘っぱちでした。わたしは身をもって、体験した。

もう成人してしまったが、息子はわたしの担当した子育てを、とても感謝してくれている。それなら、子育ては成功したのだろう。そうわたしは勝手に考えている。ちなみに母親は「イギリス人」で、息子はいわゆる「ハーフ／ダブル」だ。

そんな生活を続けていると、日本のメディアで多用される、「われわれ日本人」という表記が、気になって仕方がない。

この際の「われわれ」とは誰であり、「日本人」とは誰のことなのか？

その「われわれ」の部分は20万人を超す「帰化」し、晴れて「日本人」となった元在日朝鮮・韓国人を含むのだろうか？ 排除されているとしたら、その根拠は何なのか。つまり、「われわれ日本人」とは、本当は誰のことを指しているのか？

その「日本人」の部分は、日本国内の少数民族（族）たる、アイヌ、ウイльта、ニブヒの人々を抱擁しているのか？ もし除外されるとしたら、その理由は何だ？

じつは、「われわれ日本人」という言葉は、その性格上、「単一民族社会」とか「同質社会」とかの、まったく実情に反する「国家にひきずられた神話」を信じる者たちによって多用されている。すると更なる疑問が生じざるを得まい。

いわゆる右派論客と呼ばれる者たちの主張には、必ずと断言して良いほど、「日本人は××××を誤解している」あるいは、「日本人は○○○○を理解していない」といったフレーズが含まれる。

すると、そう表記する、センセーがたは、いったい「なに人^{じん}」なのだろうか？

新年早々、申し訳ないのだが、ぜひぜひ、ご回答下されば、しあわせだ。迎春。

